

# 令和5年度 多職種連携研修会 アンケート結果

開催日時：令和5年7月29日（土） 14:00～16:30

開催形態：ハイブリッド

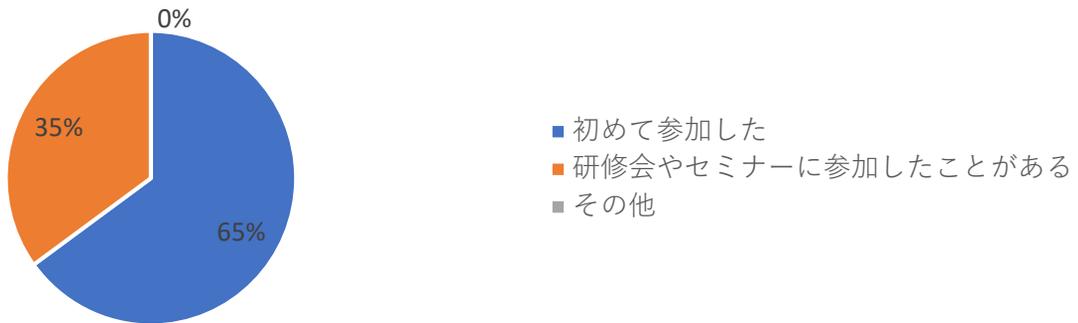
参加者数：131名（会場32名、オンライン99名）

（医師8名、歯科医師4名、薬剤師29名、リハビリ専門職3名、看護師17名、MSW4名、施設職員6名、介護事業所職員1名、介護支援専門員23名、包括職員11名、消防職員25名）

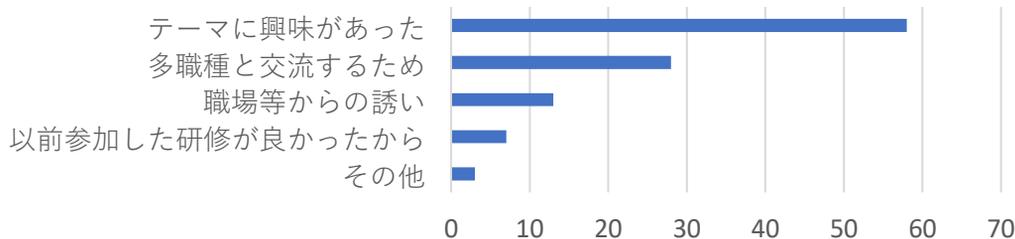
回収率：61.0%

## I 本日の研修会について

### 1. 本センターが開催するセミナー等への参加について



### 2. 研修会に参加した理由

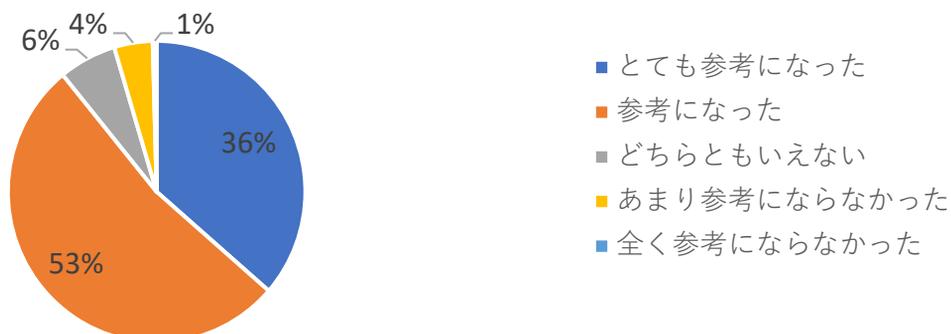


※その他

- ・情報収集したい
- ・それぞれの職種への理解
- ・上司が講師を務めていたから
- ・連携センター主催の研修には参加した方が良いと考えているため
- ・近隣医院の島先生のご講演があったから
- ・多職種の現状と意見を拝聴し今後の対策の参考にするため

### 3. 研修会の感想

※情報提供2「高齢者施設の種類と特徴」、講演1「なじみの患者さんが通えなくなったら」、講演2「スムーズに医療につなげるために」合計



### 3-ア. 情報提供2「高齢者施設の種類と特徴」感想の理由

- ・施設の種類や特徴を理解することができた。(12件)
- ・施設の種類は知っていたが、改めて確認する機会になった。(6件)
- ・介護サービス情報公表システムを知ることができた。
- ・施設の種類が多く分かりにくいだが、コンパクトに情報提供がまとまってとても参考になった。
- ・特殊性(各施設)はおおむね理解しています。年金約7~8万/月、支援2の方々の施設利用に難儀しています。
- ・すでに知っている内容だった。(5件)
- ・すでに知っている内容だったので、どのようなサービスが提供されているかなど、もう少し具体的に踏み込んだ内容が知りたかった。(2件)
- ・普段から施設探しなど行っているが改めて勉強になった。
- ・高齢者施設についてはそれなりに知っていたが、細かい条件等を確認することができた。
- ・施設の知識の整理になりました。
- ・各施設の種類だけでなく対象も知ることができた。対象者の状態に合った情報提供に役立つと思った。
- ・現在施設の種類が多くなりどれがどれかわかりにくくなっていたが、それぞれの特色が分かれていてよかったです。
- ・養護盲老人ホームの記載が無く残念であった。全て知っていて目新しい情報がなかったものの、質疑応答で説明していただいたので良かった。
- ・知識が深まりました。
- ・施設の分類について、簡潔にわかりやすく説明していただいてありがたかったです。
- ・現状を知ることができた。
- ・把握していない施設もありました。
- ・今まで高齢者施設の種類の区別が曖昧だったが、今回の説明・資料は理解しやすかった。
- ・直接介入する業務でないため勉強の機会がなかった
- ・救急現場での連携が必要なケースは多くあるので、その状況や考え方を知ることができてよかったです。
- ・施設の分類についてしっかり学んだことがなかったため、勉強になりました。
- ・種類についてちゃんと理解していなかったのととても分かりやすく参考になった。
- ・施設の分類について、簡潔にわかりやすく説明していただいてありがたかったです。
- ・ある程度の知識があったが、さらに細分化しわかりやすい説明で参考になった。
- ・曖昧だった部分が明確になりました。
- ・施設の種類ごとに異なる入居条件が勉強になった。介護職の方々の歴史的なご苦労を知りまた最近では他職種と相互理解も進みつつある点が参考になった。

### 3-イ. 講演1「なじみの患者さんが通えなくなったら」感想の理由

- ・高齢の方は、施設入所の方が往診が多い=介護職も医療について学ばなくては・・・と思った。
- ・在宅医療の現状を把握することができた。
- ・なじみが薄くなった場合、どの位その家庭との相談にのるか。病気以外のことで相談されることも結構多い。
- ・医師の高齢化、後方支援体制の充実が急がれることを考えさせられました。
- ・概要的な説明で具体的にどうすれば連携できるのか、つっこんだ内容がほしい。
- ・在宅医療を利用している利用者様は、今後の利用者様への支援の方法が分かり役立つと思われる。
- ・訪問診療をお願いする機会が増えている。内容的な部分を詳しく知ることができた。
- ・在宅医療の制度は難しいですね。
- ・往診と訪問診療の違いがわかった。(2件)
- ・在宅医療についてはよくわかったが、どうしても医師目線の点数だったり必要な知識だったのでそれは今の職では必要ないと思った。
- ・医療機関より施設移動までの流れを理解できた。
- ・利用したいと思っても環境で差が生じてしまう、又、料金のシステムが複雑で利用する人には分かりにくい。医師によっても対応が違い連携は難しいと感じています。
- ・在宅医療がすすまない理由が分かった。数字やグラフでの視覚的効果もあり良かった。医師のご苦労等も知ることができ、今後より一層医師に感謝したい。
- ・在宅医療の需要が増えているとのことで「自立支援」とリンクしている。

- ・知識が深まりました。
- ・訪問診療の概要を把握できたから。
- ・在宅医療の算定の複雑さとともに会計の説明が難しいのが分かった。
- ・主治医にケアプランを提出すること、受診同行のことなど連携のために必要なことを学ばせていただきました。
- ・在宅医療の算定について初めて知りました。
- ・ハートフルネットについて知ることができてよかったです。
- ・普段訪問看護をしながら、なかなか開業医の意見や考え方を聞く機会がなかったため。
- ・医師の視点からの情報をもらえた。
- ・在宅医療の問題点や課題を知ることができた。
- ・高齢患者様と接することが多いため、対応の仕方など参考になりました。
- ・住み慣れた地域で多職種が顔の見える関係性を持ち連携する大切さを学んだ。
- ・在宅医療の現状や問題点、医師の考えを聞くことができ参考になりました。(2件)
- ・高齢化率の高い秋田県において、興味深い内容であったため。
- ・医師の判断やその後のサポートについて、見えなかった所がわかりました。
- ・緊急時の問題を知ることができた。
- ・直接介入する業務でないため勉強の機会がなかった。
- ・秋田市の在宅医療の現状について、講師の先生の見解や悩みを聞くことができたから。
- ・身近な問題であるので薬局としても注意する必要があると感じた。
- ・今後の在宅医療に役立てたいと思いました。
- ・医師側の視点を知ることが出来た。(2件)
- ・診療報酬、往診等について改めて確認ができた。若手医師の協力等、課題が見え隠れしていることも分かった。
- ・地域で支え合うことの大切さを学びました。
- ・在宅医療の現状について理解する事ができました。
- ・内容が医院向けだったため、参考にはなりましたが直接業務に生かすには難しいと感じました。
- ・知らないことがたくさんあってそれを知ることができた
- ・往診や訪問診療の違い、請求についてなど知らないことを知ることができたため。
- ・全てではないと思うが患者の思いと医師の思いを垣間見ることができ参考になった。
- ・地域での生活を継続していく中で症状や環境の変化で節目節目で次のステージを考えないとならないが、切れ目のない支援により本人の意向を汲み取れるような関わりが必要と改めて感じた。
- ・一人暮らしなど動けなくなったとき、心細い気持ちに寄り添いに訪問してくれるようなシステムがあるのは素晴らしいと思います。
- ・地域での対応についてわかった。

### 3-U. 講演2「スムーズに医療につなげるために」感想の理由

- ・記録？(ファイル)の活用方法(全てひとまとめ)がとても便利だと思った。
- ・介護職が緊張しないで医療現場(医療者)に報告できるような配慮を考えさせられました。
- ・特化した施設の説明や対応に限られ広い分野での意味合いは少し足りなかった。
- ・具体的な対応状況を知ることができてよかった。事例がとても良かったです。
- ・ケアパートナーズの紹介では、空き状況が見られたりするとのこと助かる。(2件)
- ・工夫していることがよくわかった。良くしていこうとする姿勢や取り組みが大切だと思う。
- ・グループホームの現場の状況が少しながらイメージできた。
- ・介護の現場、医療機関、ケアマネなどそれぞれの立場での視点や感じ方が違う中で、歩み寄りが大切だと思った。
- ・施設の中の話は今まで分からなかったが、どのような体制で業務を行っているかが一部だけ見えた。施設側からどのようにアプローチしてくれたらよいかなど教えてほしい。
- ・受診時の準備等参考になりました。
- ・施設で工夫されていることはわかりやすく説明していると思いました。事例の内容もあるあるでした。お互いにわかり合えるというのも大事だと思います。→こちらの内容が多いとよいと思いました。
- ・受診介助を行う機会がある為、医療職との連携・医療の知識をつけていく必要あり。
- ・知識が深まりました。
- ・グループホームの現状を知ることができたから。事例1は参考になりました。

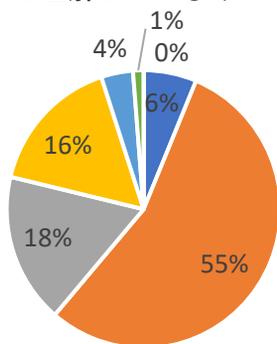
- ・多職種の相互理解の大切さを再認識できました。
- ・介護職員が付き添っての受診の場合、いつもの詳しい状況を説明できるようにしておかないといけない。
- ・個人ファイルをケアマネが持ち歩くのは難しいので、訪問先での救急対応について考えるきっかけになりました。
- ・ケアパートナーズがグループホームだけではなく、さまざまな施設で同じような仕組みがあれば良いと思いました。
- ・多種職の考え方を学ぶことで、コミュニケーションがよりはかれると思いました。
- ・施設の方の意見を聞く機会があまりないので参考になりました。
- ・施設の取り組みや問題点などがわかり、参考になりました。（2件）
- ・自分自身も同じような状況・経験があったため。
- ・知っている内容だった。
- ・スムーズに医療につなげるために利用者さん個人に対して多職種連携が積極的にされたり、24時間体制など、素晴らしいと思いました。
- ・直接介入する業務でないため勉強の機会がなかった。
- ・グループホームの運営、施設内の医療介護の連携、情報の共有の方法を詳しく知ることが出来た。
- ・情報をどのように確実に伝えたらよいかは、どこの事業所でも悩むところだと思う。具体的な対策を聞いて、参考になった。
- ・医療・介護関係者それぞれの立場での視点があるため、同じ情報を共有し、連携をとりながら医療を提供していく必要性を再認識したから。
- ・連携の重要性を確認した
- ・医療の知識が乏しい介護職をいかにして医療職と会話ができるようにしていくか、方策を立てご苦労された様子がよくわかりました。
- ・まだ救急現場でのところまで対応が追いついていない感じがした。
- ・介護士側の率直な意見を聞くことができた。
- ・講話中、昔の話が現在のものと捉えられるような流れがあり戸惑いましたが、施設さんが取り組んでおられる、医師をはじめ相手に正確に早く必要な情報を提供するために工夫を重ねておられるところが参考になりました。
- ・現場の取り組みを知ることができた。
- ・事例報告の実情にショックをうけました。外来での対応を見直します。
- ・切れ目のない支援という考え方をどのように具体化するか住まいとなる施設を運営されてる方の意見も伺えて参考になった。
- ・自分にはあまり参考になる内容ではなかったため。
- ・介護と医療の具体的な連携について知ることができた。
- ・グループホームについて分かりやすく説明いただき理解する事ができました。
- ・別の視点から理解できた。
- ・施設の方が薬局にいらした時に、どの程度伺っていいのか、お伝えした方がいいのか迷うときがあります。今回の話を伺って、こちらからも働きかけていこうと思いました。
- ・地域での対応について学ぶことが出来た。

#### 4. 本センターの研修会で取り組んで欲しいテーマや内容、進め方などがあれば記入して下さい。

- ・ ACPについて改めて知りたい。
- ・ 具体性に富んだ内容が欲しい。
- ・ 地域の総合病院との連携について、医療連携室の相談員の方々と研修してみたいです。
- ・ 認知症高齢者（独居）の金銭管理。
- ・ 加藤さんの発表にあった事例のような、多職種間でのうまくいった事例、うまくいかなかった事例などを中心にした研修があれば受けてみたいです。
- ・ 各職業としての参入の仕方。
- ・ 架け橋となってくれるような内容をしていただきたい。
- ・ 利用者、住民の方の状態を医療職の方に伝える場合、どのような内容であればいいのか。認知症の方の状態、意識がない場合等、良くある状態のパターンを通して伝え方等テーマにした研修。
- ・ 配食サービスについて。
- ・ 例えば、ケアマネさんの仕事（どんなことをどのように施行されていらっしゃるか）等紹介していただきたい。
- ・ 虐待があったらなど、その時の対処方法。
- ・ 病院と往診、在宅との連携についてもっと事例などが知りたいです。
- ・ テーマとしては良かったが、折角多職種連携の研修なのであれば、講演2などの事例でグループワーク等をしてよかったのではないかと思います。各々の立場から意見が沢山出たと思われる。
- ・ ナラティブブックの具体的な運用・活用方法。ハートフルネットとは？
- ・ 多職種からの事例報告に対する対応を討論する形態の研修会はどうでしょうか。
- ・ ケアマネジャーが訪問看護を導入する基準について。
- ・ DNAR
- ・ MCSをどのように活用しているか、総合病院がかかりつけの利用者さんでも上手く活用できるのか、など。
- ・ 在宅、施設、医療機関というそれぞれの立場から歩み寄りが必須であり、事例などをもとに対応の仕方を検討できる機会が欲しい。

## II ACPについて

### 5. ACPについて理解していますか

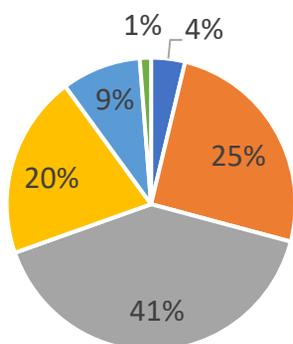


- よく理解している
- おおむね理解している
- どちらともいえない
- あまり理解していない
- 全く理解していない
- その他

※その他

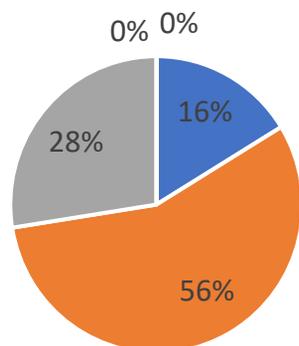
・本日の研修で初めて知りました

### 6. 業務の中でACPを意識して患者（利用者）さんや関係者と接していますか



- 常に意識している
- おおむね意識している
- どちらともいえない
- あまり意識していない
- 全く意識していない
- その他

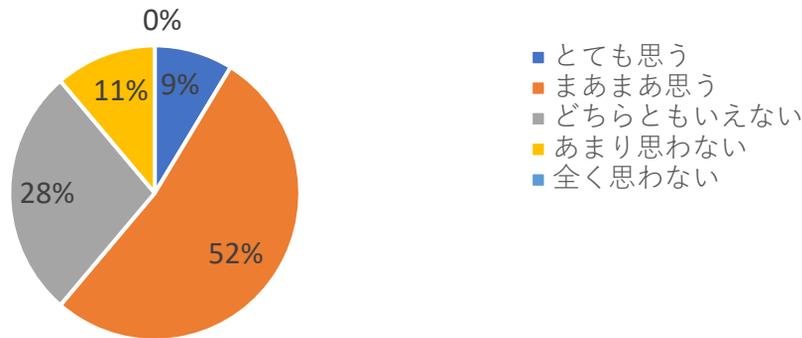
### 7. 人生会議（ACP）リーフレットを使用していますか



- 説明などに使ったことがある
- 見たことはあるが使ったことはない
- 見たことがない
- その他

### Ⅲ その他

#### 8. 身近では多職種連携が図られていると思いますか



#### 9. その他ご意見、ご感想を自由にお書きください。

- ・なじみの患者さん→10年20年あるいはそれ以上の年を要して家族と結びつきができる。時間を要する。
- ・今後の地域医療の方向性や、他職種の方への情報提供についての工夫など考える機会になりました。
- ・秋田市の多職種によるお話が大変参考になりました。
- ・ACPについて十分な時間と説明が欲しい。
- ・行政の話が聞きたかったので残念です。災害が起きた中、開催していただきありがとうございました。
- ・なかなか在宅医療との情報共有ができないので今回勉強したことで次に役立てれば良いと思っている。
- ・利用者の家族希望にてグループホームを探したことがあるが、各事業所に電話をして情報を集めた。ケアパートナーズで一括して見ることはありがたい。
- ・病院から退院調整する時、医療（胃瘻、吸引、CVC）があると受け入れてくれる施設が少なく病院へ調整することが多い。地域、在宅に帰れることを思って調整しているがなかなか難しいです。県、市としても現状を分かって考えて欲しいと思う。
- ・どうしても閉ざされた環境で仕事をしているため、このような開かれた機会であらうと交流をしていきたいと思うので、今後もどんどんと企画していただきたい。
- ・介護、医療どの点にポイントを絞り研修するか難しいと思います。医師との意見交換の場を設けているか等アンケートがあるが何を議題にするか迷いますし医師に声をかけるのもハードルが高いです。
- ・そもそも介護保険制度は「在宅」が基本であるはずにもかかわらずショートステイが多数開設し、ショートロング利用する現状を知ると矛盾を感じた。
- ・スピーカー、音声聞き取りづらかった。
- ・自分はまだまだ知らないことが多くあり日々勉強が必要。
- ・個人個人の接点で連携する場がまだ多いと感じています。他科の先生が友人である場合等。
- ・ケアマネと医療との連携はとても重要なことと分かっているのですが、自分自身うまくできていないところがあったので、今回の研修に参加し大変勉強になりました。医師がケアマネに求めている情報も聞くことができよかったです。ありがとうございました。
- ・多職種連携でうまくいった事例やこうすれば良かったと思える事例など具体的に聞いてみたいです。